

しながら支えていくことが必要である。

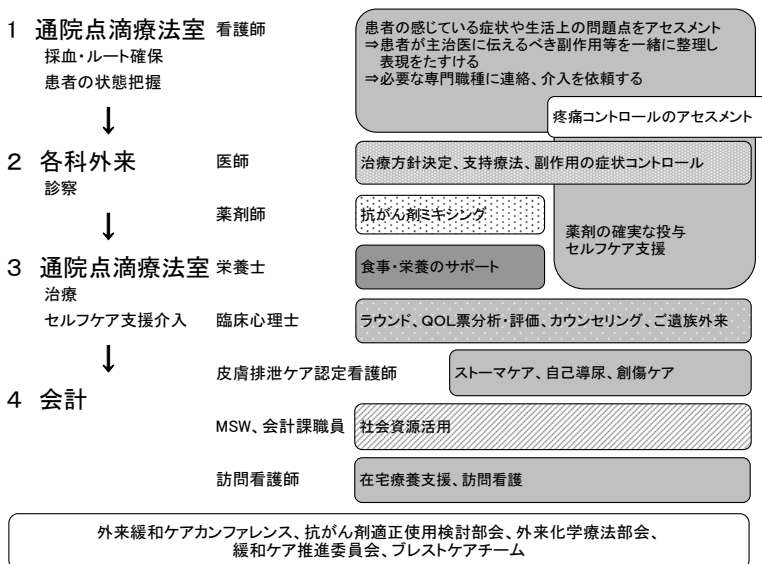


図1 外来化学療法をうける患者の流れと医療者のかかわり

## DPCの症例検討と今後の動向

医事課 青木 友和 大黒 順子

### I. はじめに

当院では平成18年7月より入院の診療報酬をDPCにより請求を行っている。今回はDPCの概略及び実際の症例併せて今後の動向について説明したい。

### II. DPCとは

DPCとは平成15年4月に、閣議決定により、特定機能病院に導入された急性期医療の診断群分類に基づく1日当たりの包括評価制度である。DPCにおける診療報酬は診断群分類ごとの1日当たりの点数に医療機関別係数、在院日数を乗じ、出来高評価部分を加える事で算定する。

### III. DPC算定における症例

一例として当院の外科で、最もDPC症例数が多い060160 x 002 xx 0 x 【鼠径ヘルニア（15歳以上）ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし】について、DPCと出来高の差額、クリティカルパスと

実際の診療内容について比較した。

### IV. 平成21年度DPC評価分科会における特別調査と新たな機能評価係数について

適切な算定ルールの構築等を検討するため各病院から提出されたデータ及び、対象病院全体の数値から突出したデータについて、特別調査（ヒアリング）を実施している。また、現行制度での医療機関別係数（機能評価係数+調整係数）が平成22年度診療報酬改正により新たな機能評価係数へ移行される。

### V. おわりに

平成22年度診療報酬改正で現行の調整係数に変わる新たな機能評価係数がどの項目で評価されるかが増収・減収に直結する。係数に応じた対応も必要となってくる。その中で精度の高いデータの提出が必要である。